

2025
事業案内

地域と共に “一歩先へ”

食と農のユートピア創造
～次代につなぐ日本一の産地づくりと仕組づくり～

経営理念

未来への心をつなぐパートナー “農をはぐくみ 地域をつなぐ”

私たちは「農業王国ふくしま」の新たな創造に挑戦します。
 暮らしの豊かさや安心を追求し、笑顔あふれる地域を未来へつなぎます。
 私たちは、みなさま一人ひとりの心をつなぐパートナーの役割を、
 誠実・確実に果たしてまいります。

一. ふるさと福島を愛し、豊かな自然、水、光を未来へつなぎます。



一. 創造と挑戦により、多様な農業・文化を次代につなぎます。



一. 豊かなくらしを創るため、協同活動の和をつなぎます。



一. 地域の笑顔をいつまでも、人と人、心と心をつなぎます。



JAふくしま未来の概要 (令和7年2月末現在)

- 名称 ■ ふくしま未来農業協同組合
- 所在地 ■ 福島県福島市北矢野目字原田東1-1
- 設立 ■ 平成28年3月1日
- 管轄地 ■ 福島市、伊達市、二本松市、本宮市、相馬市、南相馬市、伊達郡川俣町、伊達郡桑折町、伊達郡国見町、相馬郡新地町、安達郡大玉村、相馬郡飯舘村 の12市町村
- 出資金 ■ 165億6,643万円
- 組合員 ■ 92,882人(92,010人、872団体)
うち正組合員 45,515人、251団体
准組合員 46,495人、621団体
- 職員数 ■ 1,471人
- 事業所数 ■ 支店 33 よりそい店 6 営農センター 23 農産物直売所 10



みらいろ4兄弟

ホームページ



沿革・あゆみ

- 平成25年3月 福島県北地区JA合併推進協議会設立 (2013年)
- 平成27年9月 合併予備調印式 (2015年) 10月 合併総代会
- 平成28年3月 ふくしま未来農業協同組合発足 (2016年) 4月 JAふくしま未来女性部本部設立総代会 5月 第1回通常総代会 6月 「あんば工房みらい」完成 7月 小川集出荷所完成 9月 「JA歯科医院もとみや」開院 11月 吾妻水稻育苗センター完成
- 平成29年2月 「JA秋田おぼこ」との友好JA協定締結 (2017年) 「みらいろ女子会」設立 3月 イメージキャラクター「みらいろ4兄弟」誕生 ころんしよ市二本松店リニューアルオープン 4月 山木屋支店営業再開 5月 JA共済優績組合表彰「共済大賞」受賞 第2回通常総代会 7月 「生協コープおおいた」「エフコープ生協」との友好協力協定締結 11月 管内12市町村との「地域見守り活動」協定締結
- 平成30年3月 「みらいろポイントカード」サービス開始 (2018年) 4月 大枝支店、白沢支店完成 5月 第3回通常総代会 7月 「東京農業大学」との包括連携協定締結 9月 子会社「ふくしま未来サービス」発足 12月 第10回JAみらいサミット福島開催
- 平成31年・令和元年 (2019年) 3月 JA地域暮らし活動支援事業開始 5月 准組合員向け広報誌「みらいろエール」発行開始 第4回通常総代会 6月 「福島大学食農学類」との包括連携協定締結 10月 原町テント倉庫完成
- 令和2年4月 梁川総合支店移転オープン (2020年) 5月 第5回通常総代会 6月 「産地情報ライブカメラ配信システム」導入 10月 「みらいろホールやながわ」完成 12月 農作物PRチーム「J-FAP」結成 ふくしま未来農業協同組合合併5周年記念式典 第4回ジャパンSDGsアワード受賞
- 令和3年1月 RPAシステム導入 (2021年) 5月 安達地区広域共選場きゅうり選果施設稼働 福島・伊達地区の金融店舗で隔日営業開始 JA共済優績組合表彰「共済大賞」受賞 第6回通常総代会
- 令和4年2月 JA広報大賞「総合の部」準大賞受賞 (2022年) JA全中「農業協同組合表彰規程」に基づく「特別優良表彰」受賞 4月 「JAふくしま未来花き部会」設立 5月 「JA都市農村交流優良活動事例発表」最優秀賞受賞 第7回通常総代会 8月 小高園芸団地稼働 12月 あんば柿100周年記念式典
- 令和5年1月 日本記念日に「伊達のあんば柿の日」登録 (2023年) 「伊達のあんば柿」GI認証登録 2月 JA広報大賞「審査員特別賞」受賞 白根支店、小坂支店、小手支店閉店 4月 「JAみなみ信州」との包括連携協定締結 5月 梁川営農センターグランドオープン 第8回通常総代会 7月 日本記念日に「ふくしまの桃の日」登録 9月 そうまカントリーエレベーター稼働 11月 原町西支店開所
- 令和6年2月 JA広報大賞「審査員特別賞」受賞 (2024年) 清水支店完成 信陵支店、飯坂東支店、茂庭出張所、福島西支店、庭坂支店、飯野支店、山木屋出張所、柱沢支店、富成支店、大田支店、長岡支店、睦合支店、半田支店、伊達崎支店、新殿出張所、上真野支店閉店 3月 よりそい大田店、よりそい長岡店、よりそい伊達崎店オープン 畜産振興センター開所 歯科医院もとみや事業譲渡 5月 管内12市町村との包括連携協定締結開始 第9回通常総代会 6月 福島南営農センター・資材店開所 JA共済優績組合表彰「特別優績表彰」受賞 7月 日本記念日に「ふくしま夏秋きゅうりの日」登録 9月 花き振興センター開所 よりそい梁川店開所 11月 清水支店グランドオープン
- 令和7年2月 土壌分析センター開所 (2025年) 農産物販売高300億円達成記念大会開催 JA広報大賞「総合の部」大賞受賞 経済産業省「DX認定」登録 次世代農業者組織「アグリードみらい」発足 5月 JA共済優績組合表彰「共済大賞」受賞 第10回通常総代会

主な事業の内容と活動報告

地域と共に“一歩先へ” 食と農のユートピア創造

～次代につなぐ日本一の産地づくりと仕組みづくり～

私たちは、「JAふくしま未来経営理念」を礎として、豊かな自然環境の中で持続可能な農業と地域社会が共生する理想的な未来を実現することを目指します。

営農指導事業

農業生産者を対象に栽培技術指導や販売・経営に関する相談に応じております。

さらに、農家の担い手や農業法人の育成など産地形成や地域農業の活性化に取り組んでいます。また、各営農センターを拠点とした出向く営農指導体制を継続し、営農指導員の資質向上に努めています。

指導事業は、JAが取り組む様々な事業を有機的に結び付け、事業を利用する方々の満足度を高める土台となっています。

当JAは農業のさらなる発展・成長のためにJA自己改革の「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向けて、様々なことに取り組んでいます。



生産農家と組合長による意見交換

◇生産農家と常勤役員の意見交換

当JAは自己改革実践サイクルの実践にあたり、認定農業者など中核的担い手農家に対して常勤役員との意見交換訪問を行っております。

農業経営に関する課題、JAのサービスや支援に関する要望等の現場意見を直接聞くことで当JAとしての支援・連携を強化していきます。



●農の達人

各地区の中核農家を「農の達人」(9品目・17名)として委嘱。作業おける技術を指導し、生産者の技術向上を目指します。

「農の達人」による桃仕上げ摘果指導会

●「JAふくしま未来版のれん分け方式」の取り組み

地域で培われた農業技術を新たな就農者に継承し、早期の自立経営を目指す取組です。具体的には経験豊富な農家のもとで最長2年間の研修を行い、技術や経営ノウハウを学ぶ制度です。

地域農業の持続可能性を高めるための重要な取組として注目されています。令和6年度までの累計研修件数が46件となり、31人が新規就農するなど、着実に担い手の育成につながっています。



●農業支援体制

農業者の所得増大と農業生産拡大を進捗させることを目途として、JA独自事業として農業振興支援事業を展開。

経営における規模拡大や高品質・安定生産農家に取り組む農家を応援しています。

●JGAPの取得促進～安全な農作物の提供へ～

食の安全・安心に対する信頼を高めるために「JGAP」の取得促進に取り組んでいます。

※JGAPとは
食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証のこと。



2025年2月に開設しました

●土壌分析センターを活用した新しい営農経済戦略

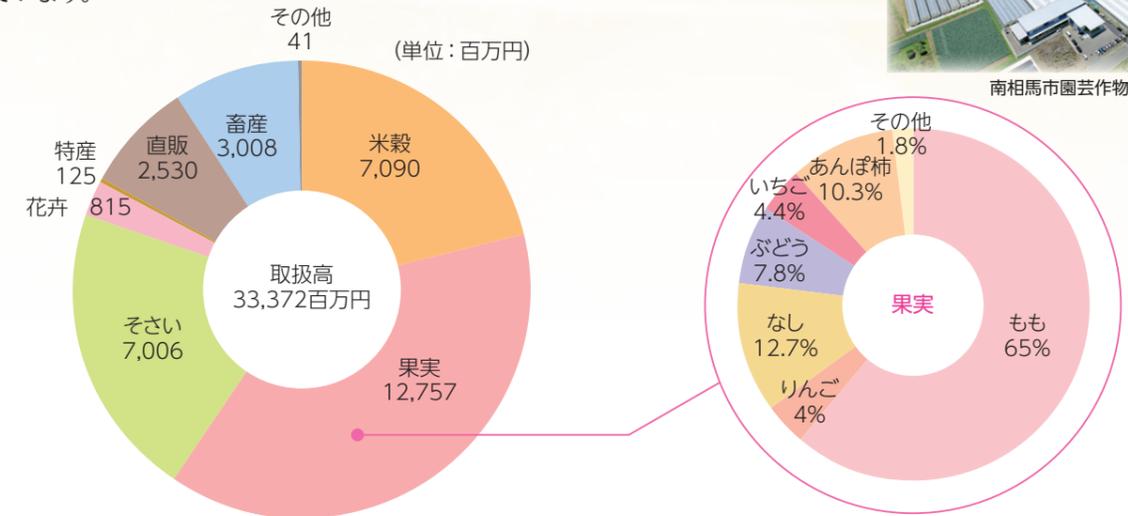
生産者の土づくり支援による管内全体での収量アップ・品質向上さらに化学肥料の抑制によるコスト削減、土壌データ蓄積による持続可能な農地管理をめざしています。

販売事業

組合員の皆さまが生産した農畜産物を集めて、卸売市場や量販店などに出荷します。また、管内にはJA直営の直売所が10ヶ所あり、地産地消や安心安全な農産物供給に貢献しています。



南相馬市園芸作物集出荷施設



●販売戦略の強化

主要市場による有利販売、直接販売や買取販売等、新たな販売手法・輸出等の販売拡大により、販売単価をさらにアップ。令和6年度には、販売品販売高は、被災地域の復興は進んでいないものの、震災前の水準までの回復には至っていませんが、桃・きゅうりを中心に販売単価が高値に推移したこともあり、目標300億円を突破し東日本大震災後最高の333億円となりました。

海外については、タイ・マレーシア・インドネシア等に、もも・りんご・なし等の輸出にも取り組んでいます。



タイ・バンコクでのトップセールス

●地産地消を応援!!



「みらいポイントカード」

- 会員数83,482名 (令和7年6月末時点)
 - ・お得なポイントサービス: 200ポイント貯まるとお買物券発行!
 - ・JA利用による会員ランク制度: JA事業利用に応じてポイント獲得率がアップ!
 - ・協力店 (地産地消応援サポーター): 会員証提示で得点やサービスが受けられます。
- 653社 (令和7年6月末現在)



きゅうり・桃・あんぽ柿 記念日

Introducing The Anniversary



ふくしま桃の日

7月13日、26日、8月8日の3日間

日本記念日協会に申請していた「ふくしま桃の日」の登録認定を受け、7月13日、7月26日、8月8日を記念日に制定しました。

福島県の桃を代表する品種「あかつき」の個体番号が「れ-13」であることから、「ふくしまの桃」が非常に美味しい時期の7月13日を起点として13日周期の3日間としました。

【令和5年7月制定】



ふくしま夏秋きゅうりの日

7月1日、8月1日、9月1日の3日間

日本記念日協会に登録申請していた「ふくしま夏秋きゅうりの日」の登録認定を受けて、7月1日、8月1日、9月1日の3日間を記念日に制定しました。

JA取扱分の夏秋きゅうりの販売高が令和5年度に日本一となったことやきゅうりの形が「1」を連想させること、夏秋きゅうりの収穫期が毎年7月から9月までであることから記念日としました。

【令和6年7月制定】

伊達のあんぽ柿の日

12月13日、1月13日、2月13日の3日間

あんぽ柿は令和5年に発症から100周年を迎えました。

これを記念して令和4年12月6日に記念式典を開催、翌1月に「伊達のあんぽ柿」としてGI認証登録され、地域ブランドとしての地位を確立しました。伊達のあんぽ柿独自の硫黄燻蒸製法の確立、普及に携わった人が13人だったことや、発祥の地である伊達市梁川町五十沢（いさざわ）にちなんで最盛期3カ月の13日としました。

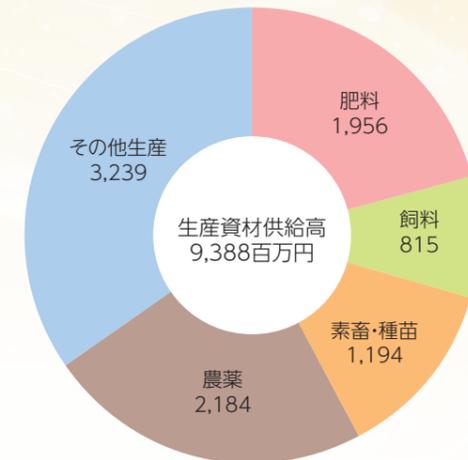
【令和5年1月制定】



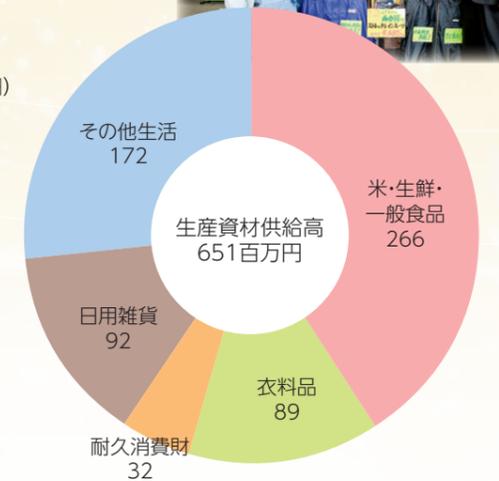
購買事業

農産物の生産に必要な資材や埼玉に必要な物資を共同購入し組合員等へ供給しております。

営農センター・資材店等では、農産物を出荷している農家向けの品物だけでなく、家庭菜園向けの品物や食品・生活用品も取り揃えております。



(単位: 百万円)



●生産コストの引き下げを目指して ～スケールメリットの創出～

生産コスト引き下げのため、オリジナル肥料の普及拡大や予約供給拡大といった取り組みを進め、肥料・農薬等重点品目の地域最安値に挑戦します。

JAふくしま未来オリジナル肥料の開発

『みらいろ物語』シリーズ

果樹8品目、野菜3品目、水稲5品目



最安値への挑戦

肥料・農薬地域最安値を目指し、肥料6品目、農薬21品目で取り組みました。

介護事業

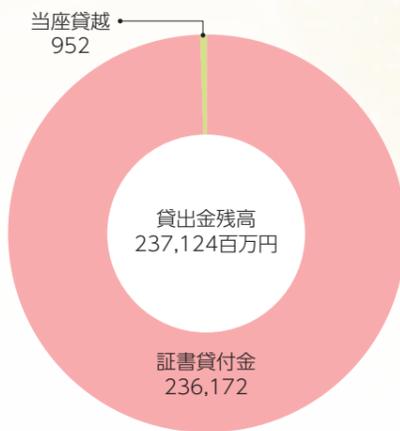
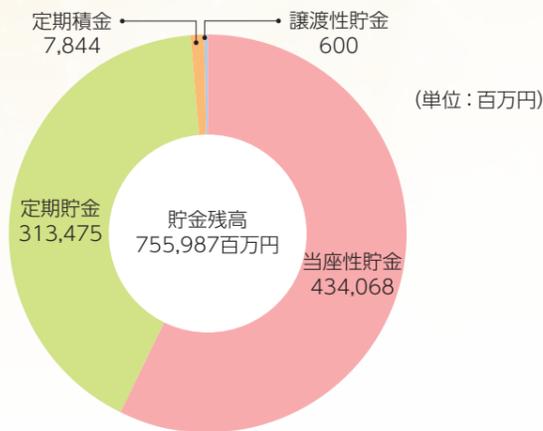
組合員・利用者が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、ご自宅でご提供する訪問介護、ベッド・車いすを借りられる福祉用具の貸与・販売など様々な介護保険サービスのほか、それらを介護利用者様・ご家族様のニーズに合ったサービスの調整をする居宅介護支援などを行っています。



信用事業

JAバンクは、貯金・貸出・為替をはじめとする金融サービスをおこなっています。組合員の皆様をはじめ地域住民の皆さまからお預かりしたお金を農業振興や生活向上に必要な資金として融資しています。

JAの信用事業は「JAバンク」として全国のJAと手を携え、農林中金という2段階の組織は有機的に結び付きJAバンクとして大きな力を発揮しています。



JAバンクは、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していく）を共通理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域協同組合として、農業や助けあいを通じた社会貢献に努めております。

農業メインバンク機能の強化

「農業近代化資金」「アグリマイティーマネージメント資金」「担い手応援ローン」「JA新規就農応援資金」等、農業経営を応援します。

生活メインバンク機能の強化

「住宅ローン」「マイカーローン」「教育ローン」をはじめ、夢の実現を応援します。

国債・投資信託窓口販売

国債（新窓口国債、個人向け国債）及び投資信託の窓口販売の取り扱いをしております。

遺言信託事業（相続、事業継承支援）（令和6年度実績）

世代交代・後継者対策として積極的に展開してまいります。

新規相談86件・継続相談46件（内、言書作成支援17件、法務・税務相談11件）

●MA（マネーアドバイザー）

日々訪問活動により金融に関する様々な提案や将来の資産形成のお手伝いをします。税務・法務の知識を基に貯金・年金・ローンや投資信託など金融商品のご提案をおこない地域の方々のお役に立つよう活動を行っています。

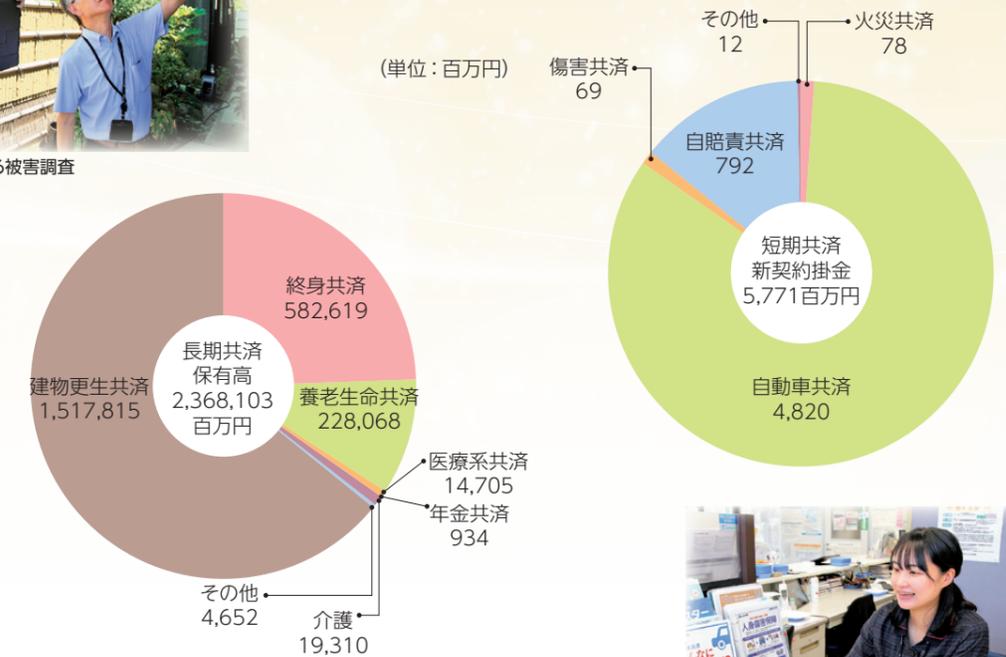


共済事業

JA共済は組合員・利用者の皆様の生命・財産を相互扶助の精神によりトータルに保障しています。事業理念に、「ひと・いえ・くるまの総合保障」を通し、皆さまの暮らしに確かな安心をお届けします。



LAによる被害調査



●スマイルサポーター

窓口におけるJAの「顔」として、組合員・地域の皆さまを「笑顔（スマイル）」でお迎えし、お引越しや名義変更、入院時や罹災時の共済金のご請求などの手続きや保証についてのご相談など「笑顔（スマイル）」でお応えします。



●LA（ライフアドバイザー）

JA共済について組合員や利用者のために、保障に関する相談や提案を行う専門スタッフです。ライフプランに合わせた保障プランを提案し、JA共済の窓口として組合員とJAを結ぶ重要な役割を担っています。



JAふくしま未来グループ子会社

(株)JAふくしま未来サービスは、燃料・LPガス、冠婚葬祭、リフォーム、家電、農機等の取り扱いにより組合員・利用者の生活を応援しています。また、農業生産法人として「(株)新ふくしまファーム」「(株)みらいアグリサービス(株)」「(株)アグリサービスそうま」が、種苗・果実・野菜の生産販売や農作業の請負・受託、農業担い手育成・研修、農業労働者の紹介等の取り扱いにより地域農業の発展に貢献しています。



地域貢献について

組合員や地域の皆さまの生活意識・価値観に応え、地域の各組織と連携しながら、多岐にわたり地域社会の活性化に取り組んでおります。食育教育や高齢者福祉、子育て支援事業などを通じ、「安心して暮らせる住みよい元気な地域づくり」に貢献しております。

また、農林中金の後押しによる地域活性化策の実践として「ふるさと共創事業」の実施により、子ども食堂など女性部を中心に旧店舗を利用したボランティア活動等が活発になっています。

Must check!

ふるさと共創事業の取り組み

- 未来館を利用し、健康教室・料理教室等の実施
 - 「よりよいサロン」15カ所で実施
- 食農教育及び金融教育
 - 小学校・幼稚園 延べ323カ所 7,304名
- 食農教育本「福島丸ごと本」
 - 10,000冊作成
- 直売所会員・利用者によるフードドライブの開始
- 管内12市町村と包括連携協定締結



Must check!

食と農業の大切さを学ぶ ～食農教育～

学校教育支援事業

- 食農体験コース
 - 小学校・幼稚園 延べ83校
- 認知症コース
 - 小学校 13校
- お金のキホンコース
 - 小学校 3校
- 小学校へ食農教育資材の贈呈
 - 小学校 延べ115校



食農・食育教育に関する取り組み

- 「みらいろアグリ塾」
 - 農業体験活動他 延べ120名
- 「サンSUNあぐりスクール」
 - 果物収穫体験 延べ180名

Must check!

心と体の健康づくり

- ウォーキング大会
 - そうま地区244名 女性部354名
- 健康増進活動
 - 農村・地域住民の健康づくりと生活福祉向上 32カ所 延べ832名
- ふれ愛グループ
 - 介護施設訪問慰問、幼稚園児との交流、1人暮らし高齢者訪問等
- 年金友の会
 - ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会、ゴルフ大会



Must check!

文化活動 ～生きがいくり・伝統継承～

- アグリカレッジ (4コース)
- 女性大学「みらいスクール」
- きらり女性大学
- レディース講座
- 女性部交流大会
- 伝統料理教室、地産地消料理教室、地域の寺子屋



Must check!

地域くらし活動支援

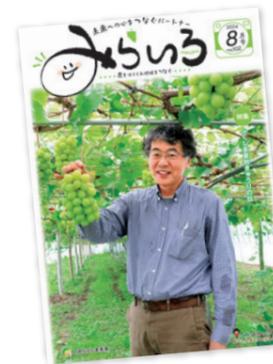
管内の地域貢献や地域活性化に取り組むグループ団体等の活動（くらしの活動、高齢者支援活動、環境保全活動等）に1団体上限10万円の資金助成を行っています。



Must check!

情報提供活動

- JA広報日本一の第38回JA広報大賞受賞
- 広報誌「みらいろ」の発行
 - 毎月発行の組合員向け広報誌
- コミュニティ誌「ぐ〜がる」の発行
 - 年2回発行の地域住民向けコミュニティ誌
- 支店だよりの発行
 - 各地区の支店・営農センター単位で毎月発行している手書きによる新聞
- ホームページ・LINE・Instagram・Facebookなどによる情報発信
- 「みらいろチャンネル」YouTubeによる動画発信



J-FAP (ジェイファップ)

「JAふくしま未来農産物PR」という意味の英語「JA Fukushima Mirai Agricultural Public Relations」の頭文字から命名しました。

J-FAP (第5期)は、JAふくしま未来の農産物のPR活動を通じて、生産者や消費者との良い関係づくりを目指していきます。



事業実績

1 主な事業実績の推移

(単位:千円)

項目	令和5年度	令和6年度
貯金等残高	768,229,846	755,987,747
貸出金残高	228,188,720	237,124,145
有価証券残高	36,790,347	40,098,648
長期共済保有高	2,427,694,345	2,368,103,359
短期共済新契約高	5,673,319	5,771,476
購買品供給高	10,225,802	10,040,083
販売品取扱高	29,067,249	33,372,875

販売品取扱高について、飼料用米の直接交付金を米穀単価に換算した場合

(単位:千円)

項目	令和5年度	令和6年度
飼料用米取扱高	3,191,916	2,659,260
販売品取扱総額	32,259,165	36,034,200

貯金等…組合員や利用等から受け入れている貯金や定期積金の額

長期共済…共済期間が5年以上

短期共済…共済期間が1年以内

貸出金…組合員・地方公共団体等への融資額

購買品供給高…肥料・農薬・生活資材等の供給高

有価証券…所有する債権・株式等の額

販売品取扱高…果実・野菜・お米等の取扱高

2 収益の推移

(単位:千円)

項目	令和5年度	令和6年度
事業収益	29,502,154	26,936,845
信用事業収益	5,351,064	5,804,396
共済事業収益	5,000,814	4,998,761
農業関連事業収益	17,781,497	15,147,666
生活その他事業収益	1,295,270	888,236
営農指導事業収益	73,507	97,784
経常利益	1,254,095	1,459,945
当期剰余金	1,107,239	1,074,935

(注) 1. 事業収益は各事業収益の合計額を表しています。

2. 当期剰余金は、銀行等の当期利益に相当するものです。

農業関連事業…販売・購買(生活)・保管・加工・利用・農用地利用・全袋事業

生活その他事業…購買(生活)・介護福祉・旅行・その他・指導(生活)事業

3 貸借対照表

(単位:千円)

科目	令和5年度	令和6年度	科目	令和5年度	令和6年度
(資産の部)			(負債の部)		
1. 信用事業資産	771,881,655	750,056,106	1. 信用事業負債	779,969,149	763,047,649
2. 共済事業資産	9,550	11,546	2. 共済事業負債	3,120,235	3,397,915
3. 経済事業資産	5,066,896	4,647,612	3. 経済事業負債	1,691,619	1,999,354
4. 雑資産	2,983,311	2,488,504	4. 雑負債	2,246,824	2,686,495
5. 固定資産	21,885,851	22,106,844	5. 諸引当金	3,009,347	2,876,609
6. 外部出資	36,703,005	43,812,644	6. 再評価に係る繰延税金負債	2,435,802	2,432,091
7. 繰延税金資産	1,206,203	1,103,420	負債の部合計	792,472,978	776,440,115
			(純資産の部)		
			1. 組合員資本	41,373,841	42,025,456
			2. 評価・換算差額金	5,889,655	5,761,107
			純資産の部合計	47,263,496	47,786,563
資産の部合計	839,736,474	824,226,679	負債及び純資産の部合計	839,736,474	824,226,679

4 損益計算書

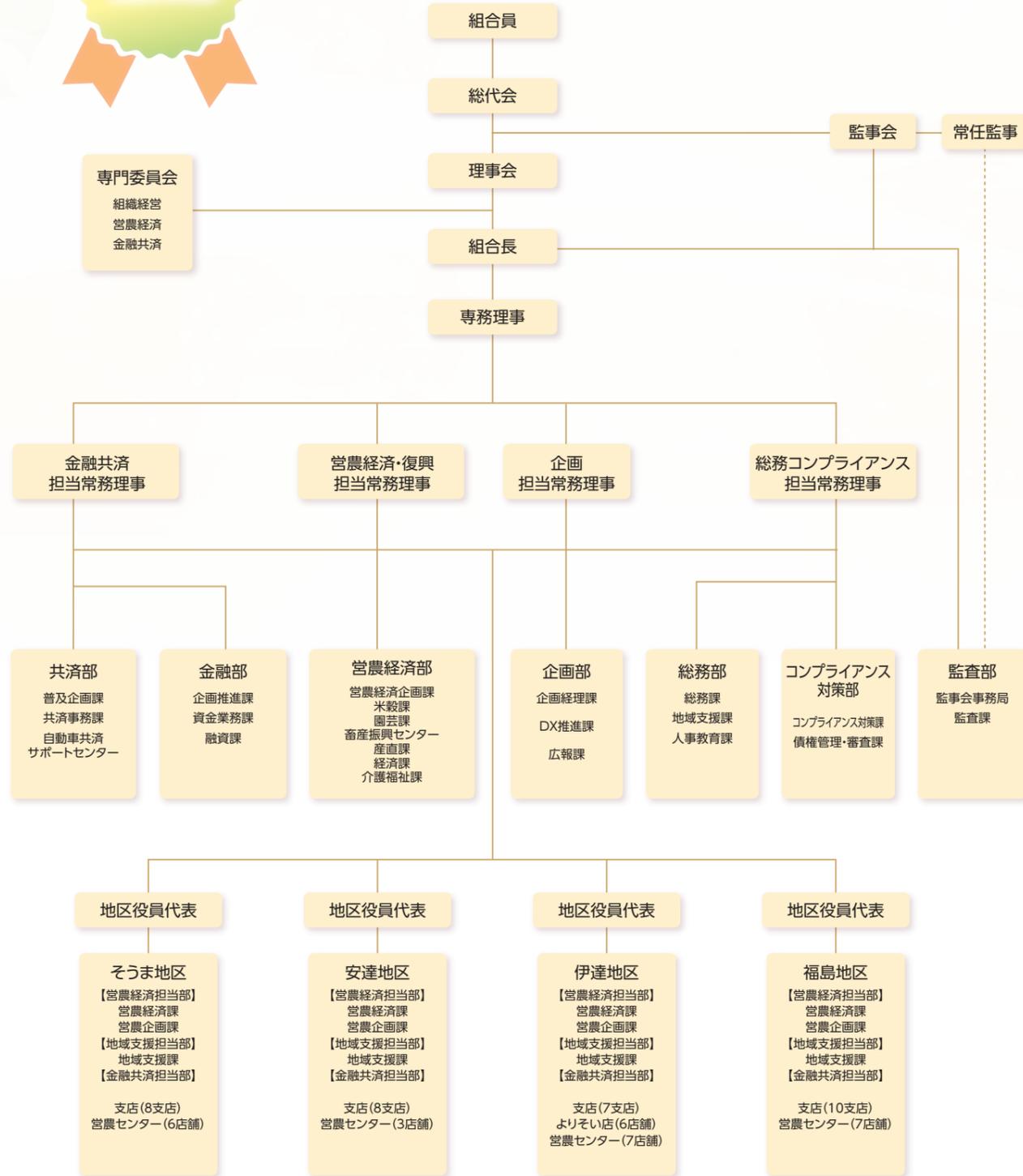
(単位:千円)

科目	令和5年度	令和6年度
信用事業総利益	4,555,893	4,774,914
共済事業総利益	4,635,276	4,626,072
購買事業総利益	1,558,044	1,431,139
販売事業総利益	2,340,376	2,390,295
保管事業総利益	48,904	38,224
加工事業総利益	882	168
利用事業総利益	295,350	255,520
指導事業総利益	△ 362,042	△ 330,321
その他事業総利益	385,384	318,907
事業総利益	13,458,070	13,504,923
事業管理費	12,775,313	12,389,189
事業利益	682,757	1,115,734
事業外収益	846,378	482,670
事業外費用	275,040	138,459
経常利益	1,254,095	1,459,945
特別利益	4,275,310	702,466
特別損失	4,098,998	658,339
税引前当期利益	1,430,407	1,504,072
当期剰余金	1,107,239	1,074,935
当期末処分剰余金	2,114,082	1,953,474

5 自己資本の状況

当JAでは、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保に努めるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、令和7年2月末における自己資本比率は、13.25%となりました。

組織機構図
(令和7年6月)



農産物直売所 ●ここら矢野目店 ●ここら吾妻店 ●ここら西店 ●ここら黒岩店 ●ここら清水店
●ここら川俣店 ●みらい百彩館んめ〜べ ●こらんしょ市二本松店
●旬のひろば ●ふれあい旬のひろば

子会社 ●(株)JAふくしま未来サービス ●(株)新ふくしまファーム ●みらいアグリサービス(株)
●(株)アグリサービスそうま

DX・デジタル化・効率化の取り組み

2025年度はDX専門部署となります企画部DX推進課を新設し、加速し続けるデジタル技術の活用可能性を探り積極的な導入活用に努めてまいります。

2025年2月に経済産業省の示す、デジタルガバナンスコードの基本的事項に対応する企業として「情報処理の促進に関する法律」に基づき「DX認定」を受けました。

JAグループ内はもとより他業種の企業団体も参加する、各種DXセミナーや研究会への積極的な参加と交流を通じ、他組織の新技术導入事例や成功事例等の情報収集を行い継続した調査研究を行っております。

スマホを利用したコミュニケーションアプリである「JAコネクト」を組合員・職員向けに展開し、病害虫や災害発生時の迅速な情報伝達環境の整備を進め、通知業務の負担軽減や、発生状況の取りまとめ業務の負担軽減と効率化を進めております。このフローを職員向けにも利活用し、研修会や受講取りまとめにも活用が開始されました。

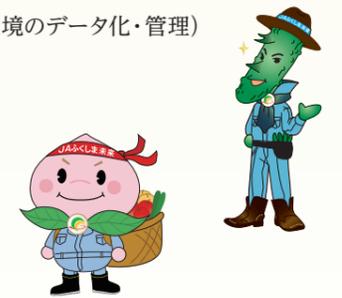
またAI音声による架電サービス「AIコンシェルジュ」を導入し督促架電へ活用し、利用範囲の拡大を図り新たな活用フローの構築を進めております。

JAふくしま未来では、第4期みらいプランを策定し「地域・組合員・利用者とともにデジタルリテラシー向上を図り、「地域と共に“一歩先へ”」をスローガンに、営農指導の強化、農業DXへの取り組み、BCP対策の強化を図ってまいります。また、近年深刻化する労働人口の減少、そして働き方改革が叫ばれる昨今にあっても、今までと変わらぬ経営基盤の確立と、組合員・利用者の皆さまに今まで以上に良いサービスを提供するために、デジタル技術を活用したDXに取り組んでおります。



その他の取り組み

- RPA・OCRの導入(購買・共済事務作業時間の削減)
- 圃場観測システム(エネルギーハーベスティング)の導入(防霜対策や圃場環境のデータ化・管理)
- 産地情報ライブカメラ(産地情報の見える化)
- 渉外職員使用タブレット(Lablet's)の活用
- JAバンクアプリ(各種お取引内容の照会・申込の各種デジタルサービス)
- JAバンクネットローンや各種手続きのデジタルサービス
- JA共済アプリ(契約内容の照会、相談連絡などの各種デジタルサービス)
- YouTubeを活用した営農指導動画の配信
- 役員・幹部職員へタブレット計130台を貸与(ペーパーレス会議・情報の共有に活用)
- アンケート等調査をWeb上へ順次移行(JAコネクトの活用)
- 管内直売所でのキャッシュレス取り扱い店舗拡大
- ノーコードアプリ作成ツール「キントーン」の活用検討



今までの主なDX・デジタル化育成

- 視察研修会の受入(計4団体受入※Web含む)
- JA-DX推進研究会への参加(毎月1回※日本農業新聞主催2023年より)
- JAグループ福島 JA-DX推進プロジェクトへの参加
- 各講習会への参加





JAふくしま未来

ロゴマークは、管内で生産されている
農畜産物をイメージ

果実：桃(赤) 穀物：米(黄金)
野菜：きゅうり(緑) 畜産：牛(ピンク)



管内の概要

JAふくしま未来は、福島県北東に位置し、中通り北部の県北地域の3JAと浜通り北部の相双地域の1JAが合併して誕生しました。管内面積は福島県全体の19%ほどで、県北地域には中心地域を南北に縦貫する形で阿武隈川が流れ、その流域に盆地が広がっています。地域内には温泉をはじめ、多くの観光資源を有するとともに、もも、りんご、なし等全国有数の果樹地帯を形成しています。海に面した相双地域のそうま地区は、太平洋と阿武隈高地に囲まれており気候は温暖で降雪も少なく、快適な居住環境で、平坦部では水稲、山間部では畜産が盛んです。管内全域で果物・野菜・水稲・畜産がバランス良く生産されています。

